

# 「防災」から「減災」へ

川越市立野田中学校

二年 池田 咲綺

「警戒レベル四 避難指示」

母からその知らせを受けたとき、頭が真っ白になった。

最近関東の都内で、夕方の局地的豪雨(ゲリラ豪雨)や集中豪雨が度々発生している。局地的豪雨では一時間に百ミリメートル以上の雨量を観測するなど、災害の危険が高まっている。私は七月に入ってから、雷が近くで鳴ったり、台風のような暴風大雨に見舞われたりと、突然の天候の変化を身近に感じていた。そしてそれが怖くて顔を埋めることが多くなっていた。そんなある日、祖父母の家へ行き、家へ帰る途中の出来事だった。祖父母の家を出るまで、きれいな青空が広がっていたが、私の家に向かうにつれて黒い雲が空を覆っていた。するとポツポツと雨が降り始め、一分後にはザーザーと大量の雨がフロントガラスに打ち付けた。その後瞬く間にフロントガラスが雨にまみれ、ワイパーを最も早く動かしても追いつかないまどになっていった。視介が悪く雨で歪んで見える。すると稲光が走り、すぐに

「ゴロゴロガッシャーン。」

と雷が落ちる音がした。

「キヤー。怖い。」

思わず叫んでしまった。危険だと判断した母は、車を一時的にショッピングセンターへ停めた。その時スマホを見たから速報として冒頭のこと知らされた。私達家族は雨雲レ

ーダーなどを確認した。少ししたら雨風が弱まりそうだったので、一度買い物をすることにした。心配からか、スーパーに流れる軽快な音楽に嫌気が差した。外が見えないのが、私の不安を更に大きくさせた。途中からここにいていいのだろうか、と考えるようになった。これ以上天気が悪くなったら、家に帰れなくなってしまうのではないか。家が鉄骨なのだから、早く帰ったほうが良いのではないか。考え方がどんどんネガティブになっていった。買い物が終わる外へ出ると、雨は小ぶりになり、風も止んでいた。

「ショッピングセンターに一時避難できて、良かったね」母がそう言った。確かに雨のピークの時間は、ショッピングセンターの中にいた。お陰で安全な時間になってから外へ出ることができた。情報と母を信じて良かった。あのまま家に帰っていたら、身の危険にさらされていたかもしれない。そう思うほど外の景色は一変し、雨風の強さを物語っていた。家へ帰ると信じられない光景があった。落ち葉が道路に散乱し、防犯砂利や陶器が道に投げ出されていた。道路に泥水もたまり、タイヤが水しぶきをあげるほどになっていた。今まで住んできたところだとは思えなかった。陶器などの危ないものだけは、すぐに片付けた。しかしもう暗かったもので、落ち葉の掃除は明日行うことにした。朝起きると現実に戻された。汚くなってしまうた街を綺麗にしようという思いで、落ち葉を集める母を手伝った。一枚一枚集める度に、胸が締め付けられるような気持ちになった。

今回の件で、都市部でも災害が起こることを身を持って知った。大きな土砂崩れにはならなかったものの、山から離れたところまで泥水が流れ出た。最近ゲリラ豪雨が増えているのは、ヒートアイランド現象など人による原因が多

くある。そして山間部だけでなく都市部への豪雨が広がっている。山から遠いから土砂災害は関係ない、なんてことはない。大きな災害の被害をできるだけ少なくするために、全員が災害に関心を持つべきである。そして災害に慣れないことが重要だと思う。頻繁に豪雨が起こることで、人々はまたか、で済ませてしまう。しかし一回一回の豪雨が少しずつ山の地盤を緩め、いつかは大きな災害に繋がってしまう。災害を防ぐことは今の科学では難しい。だから自分達で減災をするしかない。防災バッグを準備する。避難訓練を自分事として真剣に行う。ハザードマップを見て、いざとなったときにどこへ避難するのか確認する。たくさんの人が訴えているが、実際にできている人はどのくらいいるのだろうか。八月八日、宮崎県で震度六弱の揺れを観測する地震が発生した。ニュースでは大きな岩がゴロツと道路に転がっていた。大きな地震になると予想される、南海トラフ地震の促進になる可能性があるとされた。八月九日、神奈川県で震度五弱の揺れを観測する地震が発生した。それらに共通して同時になされたニュースは、防災グッズや水の売り切れ。つまり、それらの地震が起こるまでは多くの人が災害の防災対策が万全でなかった、ということになる。大きな災害が起こるのは一瞬だ。だから日頃から万が一を考えて備える必要がある。今ならまだ間に合う。しっかり備えて、被害を最小限に抑えたい。備えが安心安全に暮らすことのできる鍵になると思うから。